

福島県における復興祈念公園のあり方
(基本構想への県提言)
検討有識者会議

検討有識者会議 資料

【候補地周辺の状況】

平成27年10月9日

福島県土木部まちづくり推進課

1.復興祈念公園候補地周辺の概況

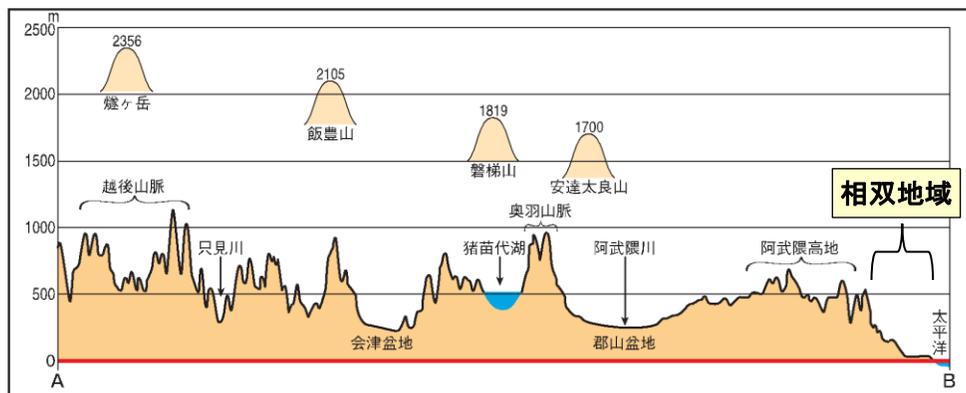
○福島県の地方区分

福島県は、太平洋と阿武隈高地にはさまれた東側の「**浜通り地方**」、阿武隈高地と奥羽山脈にはさまれた中央の「**中通り地方**」、奥羽山脈と越後山脈にはさまれた西側の「**会津地方**」により、東西に三分されている。

復興祈念公園候補地の位置する「**相双地域**」は、「**浜通り地方**」の北側に位置し、西に連なる阿武隈高地の尾根線。東で太平洋に面し、細長い平野が縦断している長い沿岸の地域である。

○相双地域の気候

太平洋側気候に属し、日本海からの季節風も奥羽山脈や阿武隈高地などに遮られ、また、沖合いを流れる暖流（黒潮）の影響により、夏は涼しく、冬でも降雪が少なく、温暖な気候となっている。



福島県の地形

出典：わたしたちの郷土(福島県)

福島県の3つの地方区分



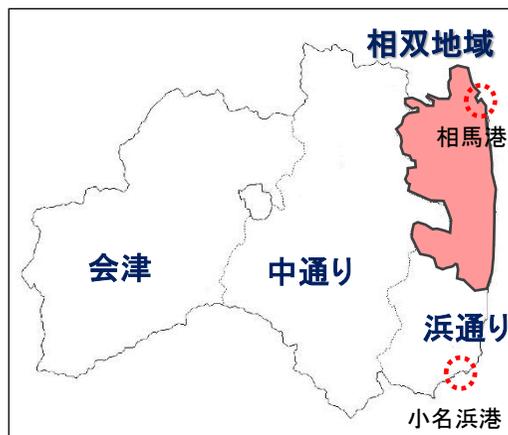
1.復興祈念公園候補地周辺の概況

○相双地域の交通網

浜通り地方は、東京都を起点に国道6号や常磐自動車道、JR常磐線が幹線として南北を縦断し、西方向には主に中通りとの連絡線として、国道114号、115号、288号を始め、多くの県道が整備されている。

また、物流の拠点として相馬港の整備が進められた。

福島県の地域区分と相双地域の交通網



・常磐自動車道の開通状況

平成23年まで：常磐富岡IC～山元ICが未供用

平成24年 4月：南相馬IC～相馬ICが供用開始

平成26年 2月：広野IC～常磐富岡ICが再開通

平成26年12月：相馬IC～山元ICが供用開始

：浪江IC～南相馬ICが供用開始

平成27年3月：常磐富岡IC～浪江ICが供用開始【全線開通】

・JR常磐線の開通状況

平成23年12月：原ノ町駅～相馬駅開通

平成26年 6月：広野駅～竜田駅開通

1.復興祈念公園候補地周辺の概況

○相双地域の歴史

① 原始

双葉町・浪江町の北に位置する南相馬市小高区は全国でも有数の貝塚が集中する地域として知られている。約6000年前をピークとする縄文海進は、現在よりも海面が約2～3m高かったと言われ、小高区では場所によっては海岸線が現在よりも4～5km内陸に入り込んでいたと推定されている。

復興祈念公園の候補地周辺からも貝塚が見つかっており、その位置から縄文海進の痕跡を伺うことが出来る。

② 古代

公園候補地周辺では、4-5世紀につくられた古墳や6世紀にかけての横穴墳墓が数多く発見されている。

参考:「図説 相馬・双葉の歴史」



図:貝塚・古墳等の埋蔵文化財分布
出典:「福島県遺跡地図」県教育委員会に一部加筆

1.復興祈念公園候補地周辺の概況

③中世～近世

鎌倉時代に下総の千葉氏が源頼朝から小高に領地を与えられたことに相馬氏が発する。戦国時代から南に岩城氏や佐竹氏、北の伊達氏などと揉み合いながらも領地を維持し、江戸時代に現在の相双地域に相当する地域が相馬中村藩として安堵された。相双地域には領地守備のための館が数多く建てられ、その数は47におよぶ。

このうち双葉町と浪江町は当時、標葉郷(しねはごう)と呼ばれ、17の館が設けられた。

参考:「図説 相馬・双葉の歴史」

④近代～現代

双葉郡は、旧幕時代、大熊町以北が中村藩、富岡町以南がおおむね幕領に属していた。明治4年の廃藩置県によって磐前県の所管に入る。

その後、明治9年、福島県に合併した。その後昭和28年9月、町村合併促進法実施等に伴い、幾度かの合併を経て、昭和41年、現在の6町2か村となった。(双葉郡内での平成の大合併は無かった。)

参考:双葉地方町村会「双葉地方の概要」

相馬中村藩の統治区域



現在の市町村分布



出典:「図説 相馬・双葉の歴史」に一部加筆

1.復興祈念公園候補地周辺の概況

○公園候補地周辺の地域歴史・文化的特徴

・条里水田

古代以降の海域の後退によって潟湖(せきこ)が形成された。潟湖は浅いところから次第に埋め立てられ水田がつけられてきている。

飛鳥時代から奈良時代にかけてつくられた条理水田の跡が相双地域に残っている。

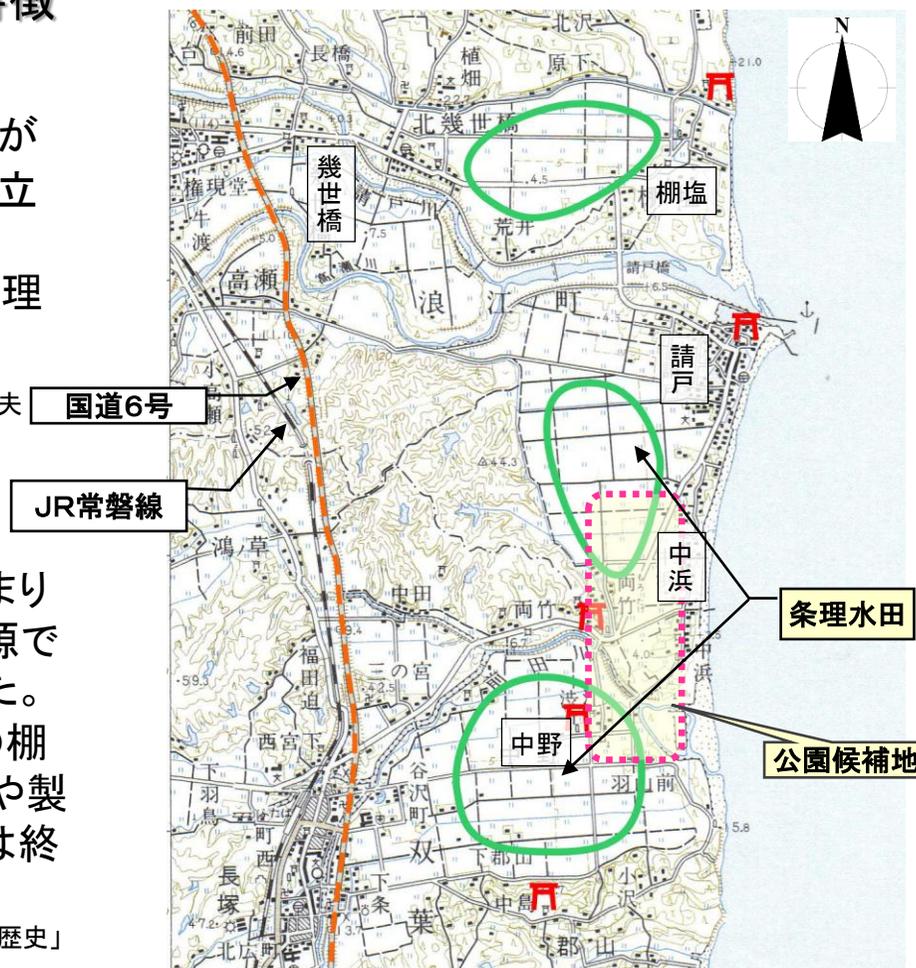
参考:「地図からいわきの歴史を読む」鈴木貞夫

・塩田開発

江戸初期に下総行徳から伝えられたのが始まりで、江戸時代を通して相馬中村藩の重要な財源であった。幕末には年間2~5万俵の生産があった。

当時の揚浜式塩田の跡は請戸川河口左岸の棚塩の地名に残っている。明治の塩の専売制度や製塩技術の進歩により、自家用の製塩を除いては終了した。

参考:「図説 相馬・双葉の歴史」



出典:「地図からいわきの歴史を読む」鈴木貞夫 から作図

1.復興祈念公園候補地周辺の概況

○公園候補地周辺の災害の歴史

・天明の飢饉

江戸時代中期の宝暦五年(1755)の凶作、天明三年(1783)の大飢饉が発生した。「土用(夏)にも綿入れを着た」と記録にあるような天候不順で収穫が皆無に近く、「草木の根葉、藁の粉、米ぬか、わかめなど」で粥にしたが、飢渴者が多く、疫病が重なって多くの死者を出した。

餓死や逃散により領内人口は、元禄十五年(1702)の89,000人から、天明七年(1787)の32,000人に減少した。

参考:「図説 相馬・双葉の歴史」

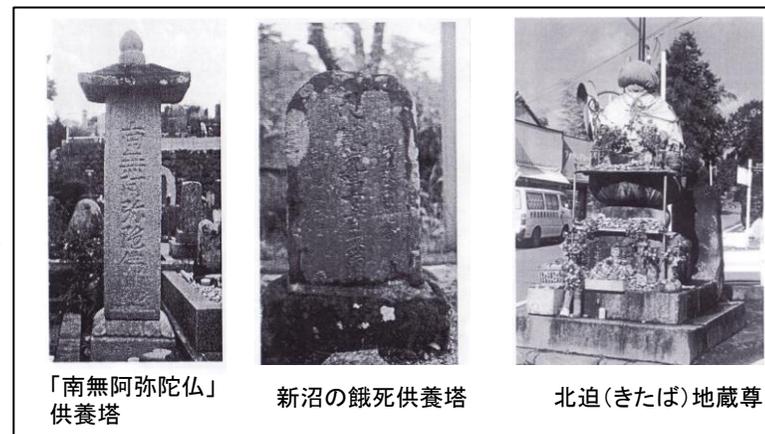
・浪江の安政の大火

浪江町権現堂村は、八十数戸の住宅が東西に広がっていたが、安政二年(1855)・三年と火事が続き、同六年には大火となって三戸を残して灰塵に帰した。

・大火と裸祭り

文久年間(1861・64)に若頭が中心となって、無病息災を祈願し、各戸を廻って水を掛け、火災の起こらないことを念じたことが、年中行事となり「浪江の裸祭り」が始まった。明治以降、消防団の人々などが中心となり、現在まで行われていた。

参考:「図説 相馬・双葉の歴史」



「南無阿弥陀仏」
供養塔

新沼の餓死供養塔

北迫(きたば)地蔵尊

出典:「図説 相馬・双葉の歴史」



出典:「浪江町史別巻」

1.復興祈念公園候補地周辺の概況

○相双地域の産業

全般に気候温暖にして第1次産業が主体として営まれ、双葉郡では、そのうち米・畜産が8割を占めている。また、高原ならびに山腹一帯では林業が栄え、この地帯は酪農も活発化している。

一方、請戸を中心とする近海漁業、浪江町・大熊町の果樹栽培など、各地に農業、漁業の基盤が築かれている。

大熊町・双葉町に東京電力福島第一原子力発電所が、富岡町・楡葉町に同第二原子力発電所が建設され、その他、火力発電所も3箇所立地し、国内有数の電源基地となった。

参考：双葉地方町村会「双葉地方の概要」



2.復興祈念公園候補地周辺の被災状況

○候補地周辺の津波被災状況(浸水範囲)



※①写真位置

図：国土地理院「2万5千分1 浸水範囲概況図 福島県」に加筆

出典：福島県災害対策本部資料
平成27年9月28日(月)現在

2. 復興祈念公園候補地周辺の被災状況



写真①: 双葉町中心部付近 (平成27年9月22日)



写真②: JR常磐線 (平成27年9月22日)



写真③: JR双葉駅 (平成27年9月22日)



写真④: 浪江町中心部付近

3.復興祈念公園候補地周辺の現状

○候補地内(諏訪神社周辺)の現況【双葉町側】



- ・諏訪神社は、東日本大震災発生時、津波からの避難場所として機能した経緯がある。



3.復興祈念公園候補地周辺の現状

○候補地内(諏訪神社)の現況【双葉町側】



- ・諏訪神社は、東日本大震災発生時、津波からの避難場所として機能した経緯がある。

3.復興祈念公園候補地周辺の現状

○候補地内(諏訪神社からの眺望)の現況【双葉町側】



※動画①

3.復興祈念公園候補地周辺の現状

○候補地内(前田川上流側)の現況【双葉町側】



※動画②

3.復興祈念公園候補地周辺の現状

○候補地内(前田川下流側)の現況【双葉町側】



※動画③



3.復興祈念公園候補地周辺の現状

○候補地内(県道254号沿い)の現況【浪江町側】



※動画④

3.復興祈念公園候補地周辺の現状

○候補地外の関連施設(請戸小学校)の現況【浪江町側】



- ・浪江町立請戸小学校は、主に1階の部分が津波による被害を受けており、現在、町では震災遺稿としての存置を検討している。



3.復興祈念公園候補地周辺の現状

○候補地外の関連施設(請戸漁港周辺)の現況【浪江町側】



※動画⑤

津波により、請戸漁港及び周辺の家屋は壊滅的な被害を受けた。